KSKP ひょうかれん
令和２年11月１日
No.95
編集人
公益社団法人
兵庫県精神福祉家族会連合会
新　銀　輝　子

〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1－1兵庫県福祉センター6階　TEL：078-891-3871/FAX：078-891-3872
Eメール：hyokaren@citrus.ocn.ne.jp　オフィシャルサイト：http://www.hyokaren.or.jp

KSKP　一九八四年八月二〇日第三種郵便物承認　毎月（一・二・三・四・五・六・七・八の日）発行

長引く新型コロナ感染対策に家族ができる事は何か

（公社）兵庫県精神福祉家族会連合会会長　新銀　輝子

連日の様に新型コロナ感染に関わる報道がされ、会合やイベントも延期や中止となり予測の立たない事態は本当に心身の疲れを感じさせます。兵家連でも同様の事態となり、皆様にはご不便ご迷惑をおかけし大変恐縮に思っております。しかし、最近では感染者数の人数を聞いては一喜一憂する事も少なくなり、コロナ対策については、新たな局面を迎えようとしているのは間違いありません。検査が進まず、自分が感染しているのか、していないのかわからないという事は、見えないものとの闘いで、実に不要のエネルギーを費やすことになります。意識、無意識にかかわらず、生活は一変してしまい、数か月も自宅に籠った人も多くいたのではないかと思います。私自身、自宅の庭の手入れなど多忙を理由に家族任せにしていましたが、これを機に自宅で快適に過ごせる空間つくりに取り組んでいます。

今の関心事は「その常識は、本当に常識なのか？」と言う疑問です。

皮肉な話ですが、知人が「どこに行っても人が少ない、このままの状態だと外出もしやすいです。」と言うのを聞きました。知人は引きこもりの経験がある方です。長年自宅からほとんど出ない生活をしている方にとって、世間はどの様に映っているのだろうかと思う時があります。

ガンジーの言葉に「地球はすべての人の必要を充足せしめても、彼らの欲を満たしきることはできない」とありますが、本当に必要なもの、ことは何なのか。

常識だと思っていることを疑ってみる事で新たな生活の構築ができる時期ではないでしょうか。

目の前のことの解決で日々追われているかもしれません。今まで以上に心配事が増えた方もおられるかもしれません。それでも、今を生きるために家族が助け合って、知恵を出し合って、語り合って、助けてもらう事、してあげることを交互に考えて、役に立つ自分をイメージしていきたいものです。皆様どうぞ、無理をなさらず、お体に留意され、明日に回せるものは明日に回して、スローライフを一緒に楽しみましょう。

県知事に精神福祉施策充実に関する要望書を提出へ

（抜粋）R2.9 月現在

【身体・知的障がいと同等の支援を】

1. 全ての交通事業者に対し全国的な運賃割引要請行動を展開します。国に働きかけ願います。
2. 身体・知的障がい同等に精神障がい者相談員制度の法制化を重ねて国に働きかけてくだい。
3. 重度障害者医療費助成(全科無料)の対象を精神１級から２級までに拡大してください。

【精神障がいに対する教育、啓発の促進】

4. 高校生以外に、小中学生徒及び小中高教師へも「精神障がい者を正しく理解」し、病気の早期発見と偏見・差別を無くすよう指導を強化して下さい。
5. 教育委員会から地域自治会の人権学習会等で「全ての人が支えあう共生の地域づくり」への教育をお願いします。
6. 「こころやすらぐひろば」事業は開設５年目を迎えます。予算面の県からの支援をお願いします。尚､県予算化が難しい場合は､正式に市町村に助成金要請をお願いします。

【精神障がい者就労の促進】

7. IPS モデルの企業への導入を進め、企業内ジョブコーチ制度導入助成金制度を検討ください。短時間就労の導入を配慮して下さい。(職親会等との協同検討への指導をお願いします)
8. 事業協同組合 (特定事業主特例) を広め､精神障がい者雇用の拡大を図って下さい。(職親会等との協同検討を進めたいので指導をお願いします)
9. 企業における差別や不当解雇防止のため、実地調査と共に企業内において「精神障がいの理解を深める」研修を全社員に徹底するよう更に指導して下さい。

【医療・年金に関する要望】

10. 第５期障害者福祉計画の【精神障害にも対応した地域包括システムの構築】の進捗状況と、未達場合はその原因を教えて下さい。
11. 精神科特化訪問看護等、アウトリーチ型医療福祉の充実を早急に図ってください。特に地方での施設数が少なく、精力的に整備してください。(地域包括ネットワークの促進)
12. 精神科病院で虐待が行われ、また不必要な隔離、拘束が最近増加しています。第三者検討委員会の設置と、指定医の資格やその管理をすべき病院の再審査をすべきと考えます。精神医療審査会の委員として当事者、家族会、福祉関係者 (資格者) の参加を要望します。県実施の調査結果を詳しく報告して下さい。兵家連の現地調査にご協力をお願いします。
13. 精神保健医療福祉の充実化のための請願活動にご協力をお願いします。
14. 2016 年障害年金制度新ガイドラインに、３年後認定見直しを検討するとありますので国に確認をお願いします。県の障害年金審査の国移管後の状況に問題ないか調査報告して下さい。
15. 自立支援医療費の自己負担無料化を引き続き国に働きかけて下さい。

【当事者及び家族支援に関する要望】

16. 当事者活動、家族会活動に対する県及び市町の支援を強化して下さい。
17. みんなねっとが導入したイギリスのメリデン版訪問家族支援技術にご支援をお願いします。

【グループホーム等退院促進に関する要望】

18.　精神障がい者のためのグループホーム・住宅に対し県の公的住宅保証制度の活用を推進してください。また、事業者への報酬単価を引き上げてください。

ご報告

あすなろのピアサポート活動

特別非営利活動法人あすなろ　理事長　藤田 行敏

ご存じの通り、ピア (peer) とは「仲間」、サポート (support) は「ささえる」を意味する言葉です。ピアサポートとは「体験を共有し、ともに考えること」です。その実践者が、ピアサポーターです。

あすなろのピアサポーターは、精神科病院の入院経験を持ち地域で障がいと共に生きている仲間です。医療者や福祉関係者、あるいは行政等の専門家とは違った役割があります。自分の体験をもとに相手のペースに合わせて話を聴き (人によって価値観は多様であることを踏まえて関わり)、ともに悩み、考えます。

法人独自のピアサポーター養成講座を受け (今のところは次回開催の予定はありません)、また一般社団法人日本メンタルヘルスピアサポート専門員研修機構が認定している「精神障がい者ピアサポート専門員養成研修」を修了し認定を受けているピアサポーターがいます。

おもな活動は

①地域移行支援（退院支援）、自立生活援助、地域定着支援などの個別支援

②精神科病院での交流会

③大学・専門学校等の授業への協力

④ヘルパー研修での講演

⑤福祉専門機関や一般向けの体験談等発表

⑥啓発冊子作り（「不安を乗りこえて」など）

⑦ピア会議　などです。

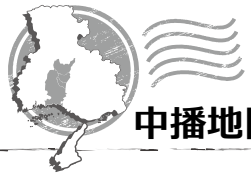
上記活動に謝金が支払われます。登録ピアサポーターは 5 名で、依頼内容や規模によっては他の法人のピアサポーターの協力を得て一緒に行う場合があります。

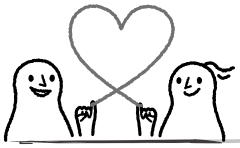
現在、中心的な活動は地域移行支援と自立生活援助です。精神科病院に入院している方を対象に、病院と協力して相談支援専門員と協働し病院に伺い、訪問支援や外出同行をしています。入院中に地域生活の準備を整え地域での定着が継続できるよう支援を行っています。平成 30 年度 11 名、平成 31（令和 1）年度 11 名、令和 2 年度現在は 3 名（年度またぎあり）の方の支援をしています。

令和元年 10 月から開始した自立生活援助は、精神科病院を退院し一人暮らしを始めている方に対しピアサポーターが 2 名 1 組でおおむね週 1 回以上の対面支援か同行支援をお住いの周りの社会資源につながることを目標に行っています。現在は 2 名の方の支援をしています。

県内各地への出張講演をしていますので、ご依頼があればお問い合わせください。

トピックス①





『ひめかれん精神障がい者相談コーナー』の2019年度集計結果

姫路市精神保健福祉連合会（ひめかれん）　池田　裕美

統合失調症の方の相談が多く、約半数を占めていることが分かります。主な相談内容としては、ご本人が病気であることを受け入れられないため、受診を拒まれたり、処方どおりに薬を飲めない、又は、薬を飲むことに抵抗があるなど、ご家族からの受診や服薬に関する相談が多かったです。

その他の相談では、食事が摂れない方や、就労に関する相談を熱心にされる方もおられ、職場環境の改善の希望や、新しい就労先を探したいという相談がありました。

相談に来られるということには少しハードルがあるかも知れませんが、今後も当事者の方や、ご家族のお気持ちを少しでも理解し、対応策について一緒に考えたり、情報提供させていただくなど、微力ながらお役に立てるよう努めていきたいと思っております。

電話相談（26件）

家族から	当事者から	その他
15	8	3

相談コーナーへの来所（39件）

当事者のみ	家族のみ	同伴
13	20	6

相談内容（65件）

医療	家族の対応	生活	その他
25	4	19	17

疾患内訳（65件）

統合失調症	発達障害	摂食障害	ひきこもり	その他
30	8	6	1	20
49%	12%	8%	2%	29%

「月刊みんなねっと」購読のお願い

賛助会員（購読料金）の種類と年会費

個人賛助会員：3,600円
団体賛助会員：3,000円／人
特別賛助会員：5,000円／口

兵家連では家族会の全国組織である「みんなねっと」の活動を支え、更に発展を促す為に「月刊みんなねっと」購読者の拡大活動を行ってます。各地域の家族会が購読の勧誘に参りますので、何卒ご協力の程よろしくおねがいします。

トピックス②

就労と親亡き後の生活の選択肢を増やしたい ～ＧＨ「そよかぜハウス」開所へ

特定非営利活動法人そよかぜねっと 三木やすらぎ工房　施設長　北上　亜矢子

20 年前に三木家族会ほのぼの会により設立、その８年後に法人運営へ。」2009 年就労継続支援Ｂ型事業所として主に精神障害者支援を開始したやすらぎ工房に加え、三木市で初めて（病院敷地内を除く）精神障害者のためのグループホーム（ＧＨ）を今年６月から開所しました。

約４年前から検討してきました。きっかけの一つは「やすらぎ工房」での日中の活動を通し、就労に向けた準備を整え、満を持して送り出し就労するのですが…なかなか続きません。作業能力も高い、職場でのコミュニケーションもとれている。なぜ ---- ？　仕事を継続するには作業能力や働きたいという気持ちだけではなく、栄養バランスの取れた食事、睡眠、継続した通院等の基盤があってなのかも。その基盤となる生活リズムを維持することは当たり前のように見えて、とても難しいのだと実感しました。

次に、親亡き後の課題です。これは生活の安定にも直結します。現在、やすらぎ工房通所者の 69%が親との同居、全国統計でも精神疾患で通院されている当事者の 75%が家族と同居、生活の場の選択肢が少ないのが現実です。長く、安定して仕事をするためには生活の面への支援にも意識を向けていきたい、親亡き後に限らず、生活の場の選択肢を増やしたい、その一つとしてＧＨを法人として持つことで、体調の安定と就労の継続、親亡き後の生活の維持につながるのではないか、その支えの一端になりたいと考えます。

現在ＧＨ「そよかぜハウス」では、サービス管理責任者・世話人・生活支援員が一人一人に必要なサポートに加えて、自立を目指して目標を定めて一緒に活動しています。

ＧＨのための建物を法人が取得できたのは、やすらぎ工房の土地・建物が三木市から無償貸与されていることが大きいです。また、去年二回の住民説明会をもたせてもらい、当事者を知らないが故の率直な不安や疑問を受ける機会がありました。市の協力や地域の方々との交流の中で理解が深まっていく機会が増えると期待し、開設に当たり感謝しています。

トピックス③「加西市議会議員障害者研究会」について

北播地区

加西家族会　会長　初田　毅

「障害者研究会」については、なぜ県議会議員と神戸市議会議員だけしかないのだろうと思っていました。私はどんな運動でも下からと考えていました。兵家連の会議で発言したことがありましたが、誰も無関心で反応がありませんでした。

その後「木の芽家族会」から資料を送っていただき研究をしました。

その後福祉に理解のある加西市議会議員と話をしました。その人は議員の仲間でいろいろと話をしていただき「三障害一本で結成し、障害者研究会でいきたいという話でした。そしてこちら（精神障害者）からお願いしたということではなく議員が自主的に作りたい。」ということでした。

現在はコロナの問題があり、６月議会中はちょっと待ってくれということでございました。６月議会が終ってからいろいろとお願いしていきたいと思っております。

トピックス④明石市議会精神保健研究会設立総会開催なる！

東播地区

７月 22 日（水）明石市議会棟にて『明石市議会精神保健研究会設立総会』を開催しました。同研究会は、ノーマライゼーションの理念の下、議員の立場から精神障害者やその家族への支援を考えていくため、精神保健福祉関係の政策などについて学習等を推進することを目的とします。下記に現状の会員名簿２６人を掲載します。

自民党　真誠会　（11 人）	◎三好宏、林健太、灰野修平、坂口光男、榎本和夫、辰巳浩司、☆寺井吉広、穐原成人、井藤圭順、千住啓介、石井宏法
公明党　（6 人）	○梅田宏希、松井久美子、尾倉あき子、佐々木敏、飯田伸子、国出拓志
維新の会　（1 人）	森勝子
未来明石　（1 人）	丸谷聡子
日本共産党　（2 人）	辻本達也、楠本美紀
フォーラム明石　（2 人）	○吉田秀夫、宮坂祐太
明石かがやきネット（2 人）	竹内きよ子、林丸美
スマイル会　（1 人）	家根谷敦子

◎：世話人会代表　　○：代表会派世話人　　☆：事務局長

今後、学習会や精神病院や作業所の見学会を実施する予定です。

県外家族会活動紹介

家族・家族会に「元気と活力」を与えてくれた医療費助成運動

特定非営利活動法人名古屋市精神障害者家族会連合会　事務局　堀 場　洋 二

平成１１年、大都市特例に対応するために市内の家族会が連合会を結成しました。全家連の２度にわたる不祥事事件が衝撃となり、会員の減少、活動の停滞を余儀なくされた時期が続いていました。そんな中で、家族会に活力と元気を与えてくれたのが、他障害同等の医療費全科全額無料化を求める運動でした。

誰もが「精神」は遅れていることは実感しており、「何とかできるものなら何とかしたい」と願っていました。平成１９年度の総会で「嘆いているだけでは家族も当事者も浮かばれない」「名古屋市と市議会に働きかけてみよう」「やるだけのことはやってみよう」という雰囲気が形成されました。まず、各会派への要請にあたり、①「医療費助成の対象からが除外されていることで､家族や本人が経済面でも健康面でもどんなに深刻な状況に置かれているか」という「生々しいい事例」をまとめる。②医療費助成への理解と請願書の紹介議員の協力をお願いする。③各議員には、地元家族会と一緒に個別訪問を繰り返し、本気度を示していく。④活動状況を全家族会で共有する。(名家連ニュースが誕生しました。)

平成２０年３月の代表者会議の最中に議員からの「今、本会議で予算が確定した」という一報を伝えた時、ワ～ !! という大歓声が沸き上がり、拍手が鳴りやまなかった光景が今でも焼き付いています。やればできるという体験を味わった家族・家族会は、以後も医療費以外の障害者間格差の是正に取り組み、現在では格差は一掃されています。運動に困難はつきものですが家族の底力を侮ってはならないことを学ばせて頂きました。

また、平成２３年度からは、精神障害者家族ピアサポート総合事業が予算化され、電話相談・面会相談・普及啓発活動を通して１７６名の方々が家族会に入会してきました。

「元気な家族」「活力ある家族会活動」は、家族の切実な要求を実現する運動の中から生まれてくると確信しています。実利実益の体験は、精神保健医療福祉制度の改善、地域生活支援システムの構築など次の大きな運動に繋がっていく可能性を秘めていると思います。

あなたのご支援で、ひょうかれんは運営されています！

ひょうかれん賛助会員募集

年会費　団体の場合１口 10,000 円
個人の場合１口　3,000 円
一口以上、何口でも結構です

振込先　郵便振替　01110-4-83568　兵家連

コラム Column

コロナ禍の下で ～問われているのは何か

会誌「ひょうかれん」編集委員 伊東 久雄

コロナ衝撃、足元に

コロナパンデミックによる緊急事態宣言下、ＮＰＯ法人そよかぜねっと運営の三木やすらぎ工房も障害者就労支援のための軽作業での「三密」を避けるため、やむを得ず、通所者の通所日数と職員の勤務日数を制限しなければならず、県に休業補償を請求している。全国で行政の要請に応えて、厳しく事業・勤務制限が実施され、なかには、その日の糧も危ういとの悲鳴も聞こえてくる。国連はコロナ経済危機により１０年で一億人超が極貧化すると推計 (6/13)---。去年末、中国で発生した感染症がこれほどのスピードで全世界に拡散し、足元の日常にその危機が来るとはだれも予想しなかったこと。しかし、歴史を振り返れば、第一次大戦の犠牲者より遥かに多い人が犠牲になった百年前のスペイン風邪、ヨーロッパの三分の一の人が亡くなったという中世のペスト、さらに農耕始まって以来、ウイルス感染は文明とともにある。しかし、いま地球に住む誰もが、これほど身近に命と健康のリスクが迫ったことは、生まれて初めてのこと、運命を共にする一人と痛感する。

日常を、生き方を見直す機会

科学者によると、一万年前の農耕・動物の家畜化・都市建設の文明化以来、地球環境へ手を加えてから「文明は感染症のゆりかご」（山本太郎教授）となる。気候クライシスを招く地球温暖化の現代とつながる。思えば、例えば食品ロスにつながる賞味期限にこだわるのは滑稽すら感じる。かつて餓えた時代、今餓えている人たちは賞味期限を問題にするだろうか。そんな「余計なもの」が日常にたくさんありそう -----。

「一つにならない社会が良い」～最初にコロナの脅威を警告、中国政府からその情報が隠蔽され感染死した武漢の医師が最後に遺した言葉。緊急事態で私権制限が当たり前になりつつある今、多様な生き方を尊重すること、それこそが障害者にも大事なこと！　命と人間らしい生活のために何が必要か。慣れ切った日常を見直す機会と想う。(2020.6.6 記)

お気軽にご相談ください
ひょうかれん電話相談

ハロー
TEL.078-891-3886

土・日・祝日を除く平日 10:00 ～ 12:00、13:00 ～ 15:00

病気の事や経済的なこと、くらしの悩み、福祉制度（ 手帳・年金・他 ）利用の手続きなどについて、県から相談員として委嘱された家族会員や精神保健福祉士などが相談に応じます。ぜひご利用ください。

心の病と生きる

地域支えあいの会“やまびこ”会員
大西貴晴

私は、兵庫県丹波篠山市に生まれ、育ちました。

1997 年に会社を退職後に体調不良になり、内科の紹介で心療内科を受診。病名は「双極性障害」と診断されました。しばらく寝たきりに生活が続きましたが、次第に体調の波も小さくなりました。そして軽い脳梗塞の母の介護をしながら、丹波篠山市内の地域活動支援センターを利用。妻に出会いました。

2009 年に私の母と妻と 3 人での同居生活がスタートしました。妻も「双極性障害」です。母は妻の病気も受け入れてくれました。2011 年に母が死去。妻とこれからの生活を考えて多くの方に相談しました。そして田舎よりも医療や福祉が充実している都市部で暮らすことを決めて、2 014 年に妻と尼崎市に転居しました。

相談支援事業所で相談しています。また、障がい福祉サービスの家事支援のヘルパーさんを私と妻で各週 3 回、月曜日から土曜日まで利用しています。また地域活動支援センターの利用もしています。そして阪神医療生活協同組合の地域支えあいの会 '' やまびこ '' の会員になり、家の中の片づけなどに来て貰っています。また尼崎園田家族会の SST にも参加。こうした多くの支援を頂きながら、心の病と闘い生活をしています。二人で介護しながら、仲良く暮らしています。

精神科救急窓口のご案内

精神科救急情報センター

電話番号
078-367-7210

平　　日：午後５時～翌日午前９時

土・休日：午前９時～翌日午前９時

《平日昼間は健康福祉事務所へ》

◆ご利用の際は、氏名・住所・連絡先を対応職員に告げてください。

兵家連電話相談室令和元年度実績報告(障害者110番)

令和元年度担当者:28名

①月別延べ相談数	
4月	103
5月	60
6月	83
7月	96
8月	75
9月	104
10月	65
11月	86
12月	105
1月	50
2月	66
3月	82
合計	975件

※月平均 約81件

②男女比	
男	女
227	748

③当事者割合	
当事者	家族等
751	224

④年齢別件数	
20歳未満	0
20歳代	18
30歳代	71
40歳代	293
50歳代	188
60歳代	238
70歳以上	71
不明/非回答	96

⑤地区別件数	
神戸市	456
阪神南	163
阪神北	36
東播磨	146
北播磨	6
中播磨	23
西播磨	40
但馬	3
丹波	3
淡路	7
県外	2
不明/非回答	90

⑥相談内容別件数			
家族・家庭　503件		福祉サービス　52件	
人生・家族	388	在宅福祉サービス	19
家庭生活	91	施設・機関・窓口	23
その他	24	福祉機器	0
法律　51件		介護・介助	3
家族問題	24	その他	7
財産・金銭	16	生きがいづくり 45件	
事故・賠償	1	趣味・余暇活動	25
人権	9	社会参加	4
その他	1	行事情報	1
経済・生活　106件		その他	15
生計	24	保健・医療　218件	
所得保障	8	保健・衛生	61
年金･手当･恩給	18	医療相談	126
税金	0	医療費	5
住宅・設備	7	医療関係機関	10
仕事	44	その他	16
その他	5	合計　975件	

令和元年度　兵庫県精神障害者相談員　相談実績

兵庫県では、精神障害者の保健福祉等に関し、当事者又は家族等が身近な立場で相談支援を行う精神障害者相談員（令和２年３月31日現在283名）が全市町に配置されています。令和元年度の相談実績等は次のとおりです。

①圏域ごとの相談員数、相談対応件数について

圏域	相談員数（人）（R2年3月末時点）	相談対応件数（件）	相談対応以外の件数（会議・行事等への参加）（件）
神戸・阪神	109	2,297	418
東播磨	44	1,089	158
北播磨	27	1,988	96
中播磨	25	1,020	5
西播磨	31	932	95
但馬	26	1,331	108
丹波	10	695	19
淡路	22	919	288
合計	294	10,271	1,187

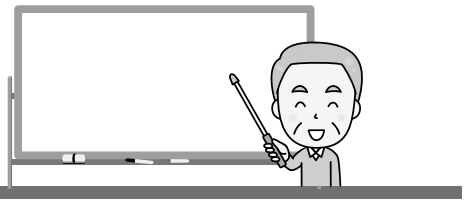
②相談者の内訳（延べ人数）（人）

本人	6,550
家族	2,796
その他	925
合計	10,271

③相談内容（件数）　（件）

家族・家庭関連	2,733
法律関連	132
経済関連	476
生活関連	1,968
福祉サービス関連	1,346
社会復帰・社会参加関連	1,901
健康・医療関連	1,715
合計	10,271

研修会・家族教室



令和２年度精神保健福祉研修会日程（実績・予定）

開催地区	開催日	開催場所	担当家族会
神戸地区	2年10月3日(土)	兵庫県福祉センター	兵家連事務局
丹波･北播磨(但馬)地区	3年3月13日(土)	三木市教育センター	ほのぼの会
阪神地区	3年1月24日(日)	川西市アステホール	むぎのめ家族会
中・西播磨地区	2年11月8日(日)	龍野健康福祉事務所	あおぞら会
東播磨・淡路地区	2年10月19日(月)	洲本市文化体育館	めばるの会

令和２年度こころの病家族教室（実績・予定）

地区名	開催予定日	開催場所	担当家族会
但馬地区	３年３月頃（未定）	未定	ロマンハウス家族会
丹有地区	２年12月12日(土)	三田市総合福祉保健センター	にじの会
北播地区	２年12月12日(土)	ぷらざこむ１	宝塚家族会
阪神南地区	３年１月16日（土）	木口記念会館	芦屋家族会
	未定	未定	あまかれん
阪神北地区	３年３月（未定）	障害者就労継続支援Ｂ型 それいゆ	小野・加東精神障がい者家族会
東播・淡路地区	３年２月（未定）	あかし保健所	明石ともしび会家族会
西播地区	未定	未定	未定
中播磨地区	未定	未定	ひめかれん

兵家連活動日誌　役員の動き (2020年5月～8月)

5月

25 入院患者の権利擁護推進プロジェクト準備会談
〈兵家連事務所〉　(新銀会長・藤田(行))

6月

3 令和2年度第2回運営委員会〈兵庫県福祉センター〉
(新銀・涌波・南部・藤田・大倉・新銀茂・石原)

会誌「ひょうかれん」95号編集委員会〈兵庫県福祉センター〉
(新銀・涌波・南部・伊東・松尾・代田・石原)

5 県いのち対策室結城主幹来訪〈兵家連事務所〉
(新銀会長・石原)

8 神出病院事件の全容解明と再発防止会合〈兵家連事務所〉
(新銀会長・石原)

26 みんなねっと総会（オンライン参加）　(新銀会長)
令和元年度業務および会計監査〈兵家連事務所〉
(新銀・山本・國下・山下税理士・石原)

29 金井社労士打ち合わせ〈602相談室〉　(新銀会長・石原)

7月

7 令和2年度兵庫県障害者雇用・就労支援ネットワーク会議
(県レベル会議)〈兵庫県中央労働センター〉　(南部)

8 いこいの場ひょうご定例会〈県福祉センター〉

13 県福祉サービス運営適正委員会選考委員会
〈県福祉センター〉　(藤田行)

25 ひめかれん第83回家族のつどい〈姫路市総合福祉会館〉
(新銀会長・金子社労士・石原)

29 県社協令和2年度第1回総合企画部会
〈県福祉人材研修センター1階研修室〉　(新銀)

8月

3 共産党県政懇談会〈神戸市勤労会館〉　(南部・藤田)
神出病院事件に対する要請書提出〈神戸市福祉局〉(新銀)

5 令和2年度第3回運営委員会〈県福祉センター〉
(新銀・涌波・南部・藤田・大倉・新銀茂・石原)
令和2年度第1回理事会〈県福祉センター〉
(理事・監事・顧問)

6 近畿ブロック代表者会議〈WEB会議〉(新銀会長・副会長)

18 金沢副知事との意見交換会〈県福祉センター〉(新銀会長)
いのち対策室結城主幹来所〈兵家連事務所〉(新銀会長・石原)

19 第16回県障害者芸術・文化祭（福祉大会）第1回実行委員会〈県庁健康福祉部会議室〉　(南部)
神出病院事件6団体打合せ会議
〈C.A.C精神保健福祉士事務所〉　(新銀会長)

21 立憲・国民民主党政策要望・意見交換会
〈ラッセホール〉　(新銀会長・南部)

24 事務職員勤務体制検討会議〈兵家連事務所相談室〉
(金井社労士・新銀会長・石原・事務職員)

27 神出病院事件裁判傍聴〈神戸地方裁判所〉　(新銀会長)

21 立憲・国民民主党政策要望・意見交換会〈ラッセホール〉
(新銀会長・南部)

24 事務職員勤務体制検討会議〈兵家連事務所相談室〉
(金井社労士・新銀会長・石原・事務職員)

27 神出病院事件裁判傍聴〈神戸地方裁判所〉　(新銀会長)

新型コロナウイルスの感染拡大を予防するための
「ひょうごスタイル」

※ ひょうかれんは「ひょうごスタイル」の推進に賛同します。詳しくはこちら →

編集後記

編集委員
**新銀会長
涌波、南部、
藤田行、伊東、
松尾、代田、
石原**

ここ数年日本各地に於いて、震度4クラスの地震が発生している。京都大学大学院人間・環境学研究科、鎌田教授の随想によると、これから10～20年後、東日本大震災よりも一桁大きい激甚災害が必ず襲ってくるとのこと。コロナ禍の今日、**複合災害**に至らないことを祈念したい心境です。

一方で新型コロナウイルスの感染拡大を機に、**地方への移住**が注目を集め、豊岡市では昨年の3倍の相談件数とのこと。兵庫県などは地域の魅力とともに、医療体制など安心できる情報の発信に力を入れる（神戸新聞)。地方の人口増が期待できるのでは・・・。

さすれば、**家族会の会員減少**に歯止めがかからない今日、コロナ禍が『**福祉活動の一環としての家族会**』の必要不可欠、を明示・教示しているのでは・・・。

【招かざる客、コロナ】ではあるが・・・。石原拝。

KSKP　発行人＝関西障害者定期刊行物協会／大阪市天王寺区真田山町2－2 東興ビル4F
一九八四年八月二〇日第三種郵便物承認　毎月（一・二・三・四・五・六・七・八の日）発行　定価＝五十円